

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームハーベスト(1F、2F合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川2-14-20		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&JiyosyoCd=2274201884-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内の清潔に心がけ、入居者様や面会の方々に不快な思いをさせないように心掛けている。
ケアプランをしっかりと立てて一人ひとりのニーズに添うように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関にはボランティアさんによってよく手入れされた花壇に花が咲き、温かく出迎えてくれます。事業所では「利用者のできることを、好きなように」という方針をもっています。10時からラジオ体操、15時の歌の時間を決めています。それ以外は利用者の意向に応じて自由に過ごすことができます。利用者の中には模型や書道などの趣味を継続したり、付き添いなく自由に外出できるようになったりと、自主性と個性を十分に発揮できる環境になっています。また、小学生との福祉体験で利用者が音楽会に参加したり、事業所が開催するクリスマス会に小学生を招待したり相互に訪問しあう関係ができています。社内研修も充実していて、職員の定着率が高い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は廊下等に張りだしてありスタッフに意識をもって実践してもらえるようにしています。	事業所内の各所に理念が掲示されています。「人生実りのとき…」として、笑顔ある運営が実現されています。理念を作成して7年が経過し、職員会議でも議題に挙がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域の防災訓練等に参加しています。散歩時にお会いした方に挨拶や世間話をしています。小中学生の体験学習も受け付けています。	防災訓練への参加や、地域の展覧会に作品を出展する関係ができています。今年度初めて、自治会の会合にも参加しました。管理者が違う地区での民生委員という経験をも活かし「地域との協働」を少しずつ向上させています。	ボランティア活動の充実を期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員の会合で話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練の様子を会議の日に行き気付いた点など意見を出していただき次回の訓練の参考にしてている。	運営推進会議には老人会、自治会、民生委員、地域包括支援センターが参加し、今年度はすでに6回達成しています。運営推進会議がきっかけとなり介護相談のできる場所であることが周知されて、入所の相談につながった例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度は区役所に出向き連絡は密にしています。地域担当の包括支援センターとも2ヶ月に1回運営推進会議にて話し合いを設けています。	諸手続きで市役所や地域包括支援センターの窓口へ赴き、直接相談出来る関係ができています。民生児童委員協議会との良好な関係を活かし、地域性を尊重した連携につなげています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは実践されています。玄関は夜間のみ施錠しています。	日中は扉をすべて開放し、チャイムで外出したことを把握するようにしています。利用者が単独で外出しても、家族と職員間で連絡を取り合うことにより自由に外出することができるようになった例もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ちホーム内で虐待がないように注意を払っている。虐待ではと疑問に思った時にはミーティングにて話し合いを持っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方がいないため身近ではないがスタッフはホーム内の研修にて学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加していただき、おり参加できない家族はご意見頂けるように玄関に箱を設けている。	家族からは、職員が気づかない指摘をうけることもあります。計画の更新時など、直接家族から意見を聞くことで、顔の見える関係につながっています。ただ、運営推進会議に参加する家族が伸び悩み、家族会の開催には至っていません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設けて意見交換をしている。	全体ミーティングで職員から意見を聞き取っています。年2回、個人面談を実施し、ユニット毎での全体ミーティングは毎月おこなっています。職員から運営に関する意見が提出された場合は、積極的に運営改善に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年2回本社の上司と話し合う機会が設けられている為その時に相談等している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で学ぶ機会があり希望があれば社外研修に参加することもできる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一社内ではあるが他ホームのケアマネとの交流や一般スタッフも交流する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に合わせた声かけや話しをすることにより本人とのよい関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から情報を得ることが多いため、家族の困っていることや要望はよく聴くようにしている。又、気になることがあればご家族にすぐに連絡をとり報告、相談するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族や本人と話し合いをもち希望に添った支援が提供できるように努めている。ケアマネがアセスメントを取り、身体や精神状況を把握し必要とされる支援をスタッフと共に見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることは自分でやっていたくようにしている。食事の支度など一緒にすることにより暮らしを共にしている関係は気づいてくれていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に見えた折には利用者様の近況を伝え問題を共に取り組めるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が面会に気安い環境を整えスタッフも家族や知人が面会に来てくれたことに対する喜びを感謝の言葉にて表すようにしている。	「毎週自宅の畑まで行って畑仕事をする」というように、在宅時にできていた習慣が、入所してもそのまま継続できるような支援をおこなっています。趣味や習慣が継続できるように個別の計画書にも記載されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルや本人の性格や性別により仲良く交流できないことも有り一人孤立してしまうこともあるがスタッフが中に入りよい関係になるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族との関係を大事にして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての希望や意向に添うことは難しいが出来るだけ利用者様の思いを汲み取れるように取り組んでいる。	利用者との会話の中から挙げられた意向は、できるかぎり実現できるようにしています。表出できない人に対しては、見守りによる平常時の観察や、わずかな動作を参考に把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより大体は把握できている。家族からの情報提供や本人とのコミュニケーションを積極的に図り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中での観察大事にしているがスタッフ全員が介護記録やカンファレンス、モニタリング表により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスを定期的に行い家族とも話し合い介護計画の見直しをしている。	担当制を取り入れ、計画作成時にはユニットの職員が集まって、皆で意見を出し合っています。モニタリングは計画作成担当が主となって意見を聴取しています。モニタリング記録票、計画書を一緒に保管することで、評価が反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング・カンファレンスの記録や介護記録・申し送りノートを利用して情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りその人に応じたサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる慰問とうある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。 家族がいけないときはスタッフが付き添っていくようにしている。	在宅時からのかかりつけ医を継続している利用者にも、受診には職員が付添っています。複数の医療機関と協力医の関係になっていて、2名の医師が往診してくれています。また、管理者が准看護師の資格を所持しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1階訪問してくれる看護師とは情報は全て共有しているので特変時には適切な指示が得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には全ての情報を病院側に提供して早期退院ができるように協力している。普段より病院の相談員とも関係を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(医療に関する確認書)を作成してある。 支援に取り組んでいる。	想定される様々な状態に対して「医療に関する確認書」に記載することで、重度化に際しての意向を確認し、事業所の方針について事前に同意を得ています。家族との意見交換を頻繁におこなうことで速やかな入院、入所につなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は行ってはいるが定期的には行っていない。初期対応については冷静に対応すれば大丈夫だと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にホーム内で訓練を行い地域の方にも見学していただき意見を出してもらっている。 地区の防災訓練には毎年参加している。	年2回の防災訓練では防災委員が中心となり、消防署の協力も得て開催しています。自治会で開催する防災訓練に利用者も毎年参加していましたが、今年度は気候が悪かったため見合わせました。	来年は防災訓練への参加が再開できることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。個室に入る時も必ず声を掛ける等の配慮をしている。	利用者を一人の人間として尊重し、きちんと最後まで話を聴くように心掛けています。「～ちゃん」などという会話は、職員に対する呼称でもおこなわないようにしています。トイレ内に保管しているオムツはプライバシー保護のためカーテンで目隠ししています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のレベルにもよるが本人の意見は尊重するようにしている。自己が表出できない方には行動や表情を見逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先してしまうこともあるがなるべく希望に添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・食事前後のテーブル拭きなどを手伝っていただいている。黙って食べることがあるのでそのときはスタッフが話題を提供するようにしている。	食事の準備をしたり、テーブルを拭いたり、下膳などを利用者にご手伝ってもらっていますが、強制することなく利用者の自主性に委ねています。季節の食材を活用し、毎日バリエーションの豊かなメニューを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量などは利用者様により変えている。食事量・水分摂取量は毎回表につけて不足しないように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて支援している。毎食後は実践できていない人もいるが夕食後は念入りに行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない方もトイレでの排泄を基本としている。一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導をしているので失敗は減らせている。	「オムツを減らしたい」という方針をもって、定時誘導のみならず利用者の素振りからも「排泄ではないか」と目配りし、トイレ誘導につなげるようにしています。夜間はパット交換を行います但し利用者の安眠を優先しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に重きを置きラジオ体操も毎日行っている。 毎日の水分摂取量、排便の記録を参考にし下剤の投与をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきを基本としているが利用者様のニーズに合わせている為変わることもある。 時間はなるべく希望に添うようにしている。	原則として1日おきに入浴できるようにしています。手作りの足ふきマットを利用者が入浴するごとに交換しています。利用者ごとに湯を毎回替えていて、利用者の希望により冬季には入浴剤などを使っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマや寝具の清潔の保持に心がけている。 又布団や毛布・枕は陽に当てるようにしている。 自室での昼寝も出来るように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変更があったときなどは申し置く利により職員は情報を共有し副作用や症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩の好きな方には時間が許す限り希望に添うようにしている。一人で散歩に出られる方もいる。レクリエーションなど行き気分転換の支援をしている。食べることも楽しみごととしてとらえ日々の献立やおやつにも工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には散歩やドライブ等戸外に出る機会を作っているが、外出を拒否される方もいるのでベランダに出て外の空気に触れてもらうこともある。	天候がよければ、全員が外出するようにしています。屋内でも歩行訓練をおこない、外気浴できるように2階ではベランダ、1階では縁側で日光浴をしています。ドライブはおもに周辺市内や、利用者の意向に応じた場所に出掛けています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じてお金を所持したり、お預かりしている方もあります。希望があれば買い物に同行して買い物を楽しんでいただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日々清潔を保つよう心掛けている。 居間や自室では温度調節に気をつけて不快や混乱を招くことのないように心掛けている。	玄関には職員手作りの飾り物が置かれています。共用空間の貼り絵は、季節に合わせて毎月作成していて、地域の展覧会にも出展しています。カレンダーや絵が所々にあり、殺風景にならない配慮がみられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時とお茶を楽しむ時では席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるときに使用していたもの等を自室においている。	使い慣れた品の持ち込みを奨励して、各居室室内にはテレビ、ダンス、足踏みミシンなど様々な品が持ち込まれています。居室内で模型などの趣味を楽しむ利用者もいます。各居室は毎朝おこなわれる掃除の際に換気しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができるだけ自立した生活が送れるように工夫されている。		